

選挙標準フォーマット

1992.03.31	第1版
1993.11.08	第2版
1994.07.13	第3版
1998.01.08	第4版 (市区町村別有権者データの追加)
2001.03.16	第5版 (非拘束名簿式比例代表制対応)
2002.03.08	第5版 改訂
2006.03.17	第6版
2020.03.06	第6版 改訂 (比例代表制〈特定枠〉対応)

一般社団法人日本新聞協会

技術委員会情報技術部会

選挙・人事フォーマット連絡会

選挙標準フォーマット

*** 目 次 ***

	ページ
1. 電子データの基本方針	1
2. 電子データ仕様	2
3. ファイル内のレコード構成	3
4. データ・フォーマット	4
4.1 有権者データ・フォーマット	4
4.1.1 有権者データ項目一覧	5
4.2 投票データ・フォーマット	6
4.2.1 投票データ項目一覧	7
4.3 開票データ・フォーマット	8
4.3.1 開票データ項目一覧	9
4.3.2 開票結果内訳の各項目について	11
4.4 非拘束名簿式比例代表制開票データ・フォーマット	12
4.4.1 非拘束名簿式比例代表制開票データ項目一覧	13
5. 参考資料	16
別紙A	16
選挙種別コード表、データ識別コード表、レコード長識別コード表、 都道府県J I Sコード表	
別紙B その1	17
選挙区コード及び市区町村コードの扱いについて	
別紙B その2	18
サンプル1	
別紙B その3	19
サンプル2-1、サンプル2-2	
別紙B その4	20
サンプル3	
別紙C	21
高点順開票データ・フォーマット	
別紙D	22~24
『新聞協会・選挙標準フォーマット』に対するQ/A集	

1. 電子データの基本方針

- ①電子データ標準化フォーマットは提供元に強いるものではなく、新規に提供される場合やシステムの更新などが行われる場合に、採用をお願いするものです。
- ②印刷物（選挙投開票資料）を正本とし、電子データは印刷物の補助データとします。
- ③提供内容は、有権者データ、投票データ、開票データの3種類を対象とします。
- ④電子データ内のレコード順は、印刷物と同じとします。
- ⑤送信手段（電子メール添付ファイルなど）については、提供元と提供先報道機関との間での協議をお願いします。

2. 電子データ仕様

【標準化して頂きたい項目】

- ①ファイル書式 テキスト形式
- ②使用文字コード J I S - 8 コード (漢字は使用不可)
- ③提供データ 市区町村別投票状況データ
市区町村別開票状況データ
市区町村別有権者データ
- ④提供データ種類 投開票区を最小単位とする。また、県計・選挙区計・市部計・郡部計 (全市部の計・全郡部の計)、市区町村計 (投開票区が市区町村を分割する場合) 等も提供して頂くよう要望する (その場合の市区町村コードの扱いについては後に記述)。
- ⑤データ順序 正式な資料配布の順に合わせる。

【ファイル名規約】

<ファイル名>					<拡張子>			
データ識別コード	選挙種別コード	県コード	市区町村コード	レコード長識別	(固定)			
					.	D	A	T

項目名	桁数	内容
データ識別コード	1	Y : 有権者データ T : 投票データ K : 開票データ M : 非拘束名簿式比例代表制開票データ (S : 開票データ : 高点順開票データ・フォーマット)
選挙種別コード	1	別紙A (選挙種別コード表) 参照
県コード	2	別紙A (都道府県 J I S コード表) 参照
市区町村コード	3	0 0 0 : 県レベル (衆参院・知事・県議選等) X X X : 市区町村レベル (県レベル以外) は市区町村コード
レコード長識別コード	1	H : 投票データ、有権者数データ S : 開票データ (25人用) L : 開票データ (99人用) V : 非拘束名簿式比例代表制開票データ (可変長)
ファイル拡張子	3	D A T : 併合カレント・ファイル

3. ファイル内のレコード構成

管理データレコードを別途設けず、各市区町村レコード内に含む。

同一ファイル内の各レコード・フォーマットは共通とし、固定レコード長とする。なお、非拘束名簿式比例代表制の場合、届出政党および候補者数により可変レコード長となる（詳細は後述）。

例>有権者データファイル

レコード管理部	32バイト
有権者数値データ部	96バイト
レコード管理部	128バイト
有権者数値データ部	128バイト
レコード管理部	128バイト
有権者数値データ部	128バイト
~ ~	
レコード管理部	128バイト
有権者数値データ部	128バイト

投票データファイル

レコード管理部	32バイト
投票数値データ部	96バイト
レコード管理部	128バイト
投票数値データ部	128バイト
レコード管理部	128バイト
投票数値データ部	128バイト
~ ~	
レコード管理部	128バイト
投票数値データ部	128バイト

開票データファイル

25人データ 99人データの時

レコード管理部	32バイト
開票数値データ部	456バイト or 1418バイト
レコード管理部	488バイト or 1450バイト
開票数値データ部	
レコード管理部	
開票数値データ部	
~ ~	
レコード管理部	488バイト or 1450バイト
開票数値データ部	

非拘束名簿式比例代表制開票データファイル

レコード管理部	32バイト
開票数値データ部	可変長
レコード管理部	
開票数値データ部	
レコード管理部	
開票数値データ部	
~ ~	
レコード管理部	
開票数値データ部	

(レコード管理部は投票・開票データファイルで共通フォーマット
有権者ファイルのレコード管理部は、先頭12バイトのみ共通)

4. データ・フォーマット

4.1 有権者データ・フォーマット

レコード管理部 (32バイト)						
データ識別コード Y	レコード長識別 H	選挙種別コード	県コード	選挙区コード	市区町村コード 市区町村コード 拡張コード	使用しない
1	1	1	2	2	3	2
20						

⇒続く

有権者 数値 データ 部 (94バイト)						改行		
当日の有権者数			前回の有権者数			使用しない	CR	LF
男	女	計	男	女	計			
8	8	8	8	8	8	46	1	1

続き
⇒

レコード長 128 バイト
(改行を含む)

4.1.1 有権者データ項目一覧

項目名		桁数	内容	初期値	
レコード管理部	データ識別コード	1	Y：有権者データ		
	レコード長識別	1	H：投票データ		
	選挙種別コード	1	別紙A（選挙種別コード表）参照		
	県コード	2	別紙A（都道府県JISコード表）参照		
	選挙区コード	2	00：全県区 01～nn：選挙区数 99：県計・全選挙区合計等 （複数選挙区でない場合は「00」とする）		
	市区町村コード	市区町村コード	3	市区町村コード（JISコード） 999：県計・選挙区計	
		拡張コード	2	同一市区町村内で投開票区が分割される場合および合計・集計値データ時に使用 00：分割無し 01～nn：分割数 91：市部全体の合計 92：郡部全体の合計 93：東京23区合計 94：政令指定都市の合計 95：一般市の合計 99：県計・選挙区計 （使用例は、別紙B参照）	
		20	有権者データ・フォーマットでは使用せず	空白	
有権者数値データ部	当日の有権者数	男	8	空白桁は「0」を埋める	ALL0
		女	8		
		計	8		
	前回の有権者数	男	8	空白桁は「0」を埋める	ALL0
		女	8		
		計	8		
		46	有権者データ・フォーマットでは使用せず	空白	
CR+LF		2	改行		

レコード長 128 バイト（改行含む）

4.2 投票データ・フォーマット

レコード管理部 (32バイト)															
データ識別コード T	レコード長識別 H	選挙種別コード	県コード	選挙区コード	市区町村コード		発表		データ提供通番	投票状況コード	開票状況コード	投状況		確定後修正回数	リザーブ
					市区町村コード	拡張コード	時	分				時	分		
1	1	1	2	2	3	2	2	2	2	1	1	2	2	1	7

⇒続く

投票数値データ部 (94バイト)										改行	
当日の有権者数			投票者数			投票率			リザーブ	CR	LF
男	女	計	男	女	計	男	女	計			
8	8	8	8	8	8	5	5	5	31	1	1

続き
⇒

レコード長 128 バイト
(改行を含む)

4.2.1 投票データ項目一覧

項目名		桁数	内容	初期値	
レコード管理部	データ識別コード	1	T：投票データ		
	レコード長識別	1	H：投票データ		
	選挙種別コード	1	別紙A（選挙種別コード表）参照		
	県コード	2	別紙A（都道府県JISコード表）参照		
	選挙区コード	2	00：全県区（複数選挙区でない場合は「00」とする） 01～nn：選挙区数 99：県計・全選挙区合計等		
	市区町村コード	市区町村コード	3	市区町村コード（JISコード） 999：県計・選挙区計	
		拡張コード	2	同一市区町村内で投開票区が分割される場合および合計・集計値データ時に使用 00：分割無し 01～nn：分割数 91：市部全体の合計 92：郡部全体の合計 93：東京23区合計 94：政令指定都市の合計 95：一般市の合計 99：県計・選挙区計 (使用例は、別紙B参照)	
	発表時刻	4	発表時刻（時分） 96時間制	空白	
	データ提供通番	2	01～nn 設定不可時は空白（※1）	01	
	投票状況コード	1	当該投票区の状況を表す（※2） 0：未処理 1：中間 9：確定 X：無投票	0	
	開票状況コード	1	当レコードデータでは意味を持たず、空白	空白	
	投票状況時刻	4	投票状況に対応する時刻（時分） 96時間制 0000：無投票	空白	
確定後修正カウント	1	0～9修正があった場合に1UPされる ※修正処理が提供できない場合は空白	0 (※1)		
リザーブ	7	将来のための空きエリアとして空白とする	空白		
投票数値データ部	有当権者の数	男	8	空白桁には「0」を埋める	ALL0
		女	8		
		計	8		
	投票者数	男	8	空白桁には「0」を埋める	ALL0
		女	8		
		計	8		
	投票率	男	5	整数部3桁+小数部2桁 (小数部は小数点以下第3位を四捨五入)	ALL0
女		5			
計		5			
リザーブ	31	将来のための空きエリアとして空白とする	空白		
CR+LF	2	改行			

レコード長 128 バイト（改行含む）

※1 既に空白を設定している選管は、そのままの仕様で構いません

※2 投票終了後、発表データの一部に最終確認が済んでいないものを含む場合は、「1：中間」を使用してください。

4.3 開票データ・フォーマット

レコード管理部 (32バイト)															
データ識別コード K	レコード長識別	選挙種別コード	県コード	選挙区コード	市区町村コード		発表		データ提供通番	投票状況コード	開票状況コード	開状況		確定後修正回数	リザーブ
					市区町村コード	拡張コード	時	分				時	分		
1	1	1	2	2	3	2	2	2	2	1	1	2	2	1	7
投票データと同じ															

⇒続く

開票数値データ部ヘッダー (127バイト)															
開票結果内訳													開票率	持ち帰り票マイナスフラグ	リザーブ
得票総数	按分の切り捨てた票数	いずれの候補者にも属さない票数	有効投票数	無効投票数	投票総数	持ち帰りと思われる票数	不受理と決定した票数	投票者総数	記載無効	確定投票者数	法定得票数				
11	11	11	8	8	8	8	8	8	8	8	8	11	5	1	13

続き⇒

⇒続く

n=25 : 327バイト n=99 : 1289バイト							改行	
候補者別得票数							CR	LF
有効候補者数	候補1		候補n				
	届出番号	得票数		届出番号	得票数			
2	2	11	2	11	1	1	

レコード長 n=25 488 バイト
レコード長 n=99 1450 バイト

続き⇒

4.3.1 開票データ項目一覧

項目名	桁数	内容	初期値		
レコード管理部	データ識別コード	1	K：開票データ		
	レコード長識別	1	S：25人用（488バイト／1レコード） L：99人用（1450バイト／1レコード）		
	選挙種別コード	1	別紙A（選挙種別コード表）参照		
	県コード	2	別紙A（都道府県JISコード表）参照		
	選挙区コード	2	00：全県区（複数選挙区でない場合は「00」とする） 01～nn：選挙区数 99：県計もしくは（開票結果内訳の）全選挙区合計等		
	市区町村コード	市区町村コード	3	市区町村コード（JISコード） 999：県計もしくは（開票結果内訳の）選挙区計	
		拡張コード	2	同一市区町村内で投開票区が分割される場合および合計・集計値データ時に使用 00：分割無し 01～nn：分割数 91：市部全体の合計 92：郡部全体の合計 93：東京23区合計 94：政令指定都市の合計 95：一般市の合計 99：県計もしくは（開票結果内訳の）選挙区計 （使用例は、別紙B参照）	
	発表時刻	4	発表時刻（時分） 96時間制	空白	
	データ提供通番	2	01～nn 設定不可時は空白（※1）	01	
	投票状況コード	1	当該投票区の状況を表す（※2） 0：未処理 1：中間 9：確定 X：無投票	0	
開票状況コード	1	当該開票区の状況を表す（※3） 0：未処理 1：中間 9：確定 X：無投票	0		
開票状況時刻	4	開票状況に対応する時刻（時分） 96時間制 0000：無投票	空白		
確定後修正カウント	1	0～9：修正があった場合に1UPされる ※修正処理が提供できない場合は空白	0 （※1）		
リザーブ	7	将来のための空きエリアとして空白とする	空白		
次ページに続く					

※1 既に空白を設定している選管は、そのままの仕様で構いません。

※2 投票終了後、発表データの一部に最終確認が済んでいないものを含む場合は、「1：中間」を使用してください。

※3 開票終了後、発表データの一部に最終確認が済んでいないものを含む場合は、「1：中間」を使用してください。

				前ページから続く		
開 票 数 値 デ ー タ 部 (※3)	開 票 結 果 内 訳 (※4)	得票総数 A	11	開票データの確定時のみ有効 (整数部 8 桁 + 小数部 3 桁)	A L L 0	
		按分の切り捨てた 票数 B	11	開票データの確定時のみ有効 (整数部 8 桁 + 小数部 3 桁)		
		いずれの候補者にも 属さない票数 C	11	開票データの確定時のみ有効 (整数部 8 桁 + 小数部 3 桁)		
		有効投票数 D	8	開票データの確定時のみ有効		
		無効投票数 E	8	開票データの確定時のみ有効		
		投票総数 F	8	開票データの確定時のみ有効		
		持ち帰りと思われる 票数(※6、7) G	8	開票データの確定時のみ有効		
		不受理と決定した 票数(※6) H	8	開票データの確定時のみ有効		
		投票者総数 I	8	開票データの確定時のみ有効		
		記載無効 J	8	未使用 (国民審査のみ)		
		確定投票者数 K	8	投票データの確定時のみ有効		
		法定得票数 L	11	開票データの確定時のみ有効 (整数部 8 桁 + 小数部 3 桁)		
		開票率	5	開票率 (整数部 3 桁 + 小数部 2 桁) 提供不可時は空白		A L L 0
		持ち帰り票フラグ(※7)	1	持ち帰りと思われる票数がマイナスの場合 = 1		0
リザーブ	13	将来のための空きエリアとして空白とする	空白			
候 補 別 得 票 数 (※1・※5)	候 補 1	有効候補者数(※5)	2	当レコード内の有効候補者数 (※5)		
		届出番号	2	0 1 (※2)		
	候 補 n	得票数	11	得票数 (整数部 8 桁 + 小数部 3 桁)	A L L 0	
		届出番号	2	届出番号 = 「00」時には当データは無効 (※2)		
	得票数	11	得票数 (整数部 8 桁 + 小数部 3 桁) 届出番号 ≠ 「00」時には当データは有効 レコード長識別 = S なら n = 25 人分 レコード長識別 = L なら n = 99 人分	A L L 0		
C R + L F		2	改行			

※1 候補者別データの数は、届け出後の立候補者数が 25 人を超えるか否かで決定する。

立候補者数が 25 人を超えた時 候補 n = 99

立候補者数が 25 人以内の場合 候補 n = 25 としレコード長はそれぞれ固定長。

候補 n = 99 レコード長 1 4 5 0 バイト (改行含む)

候補 n = 25 レコード長 4 8 8 バイト (改行含む)

※2 届け出後、立候補辞退があった場合は、選管の届け出番号の指示に従う。

※3 開票数値データ部で、設定する数値の空白桁には「0」を埋める。(例: 1234.0 → 00001234000)

※4 開票結果内訳の各項目で、県選管側で提供不可能な項目は、空白で埋めるものとします。

提供可能な項目については、その項目が有効となるまでは、すべて「0」を埋めるものとします。また、無投票選挙区のデータを提供して頂く場合は、すべて「0」とします。(既に空白をセットしている選管はそのままの仕様で構いません)

※5 衆議院比例代表選挙の場合、候補者を政党と読みかえる。この場合、届け出番号は単純に「01」から昇順に振る。

参議院の非拘束名簿式比例代表制の政党ごとの集計票数のみの開票データについては、通常の開票データ・フォーマット (後掲の参考資料: 別紙 A・データ識別コード表「K」開票データ) を用いる。得票数の項目には政党ごとの政党名投票、候補者名投票の各得票数の合計を設定する。参議院の非拘束名簿式比例代表制の候補者ごとの開票データについては別項

- 4.4.1の専用フォーマットを使用する。
- ※6 「持ち帰りと思われる票数 G」と「不受理と決定した票数 H」に関し、「持ち帰り、不受理」または「持ち帰り、その他」など、持ち帰り票と不受理票やその他の票数を合算して発表する場合は、合計した票数をいずれかにセットし、他方の項目には「0」をセットする。
- ※7 持ち帰りと思われる票数を負数として発表する場合には「持ち帰り票フラグ」に1をセットし、「持ち帰りと思われる票数」には票数の絶対値をセットする。正数の場合は、フラグの初期値に「0」をセットする。

4.3.2 開票結果内訳の各項目について

開票結果内訳については、多くの項目があるが、県選管から総務省への報告にあると思われる項目をすべて入れてある。説明の便宜上、各項目に記号を付けた。

A：得票総数

全候補者の得票数を合計したもの。

B：按分の切り捨てた票数

按分の場合、小数点第4位以下を切り捨てて、小数部は3桁とするので、その際に切り捨てられた票数の合計。

C：いずれの候補者にも属さない票数

有効票数のうち、得票総数にも、按分の切り捨てた票数にも含まれない票数

D：有効投票数

上記の3項目と、有効投票数（D）との間には、

$$\boxed{D = A + B + C} \quad \text{の関係がある。}$$

F：投票総数

有効投票数（D）と無効投票数（E）、投票総数（F）との間には、

$$\boxed{F = D + E} \quad \text{の関係がある。}$$

I：投票者総数

投票者総数（I）は、

$$\boxed{I = F + G + H} \quad \text{の関係がある。}$$

投票者総数は、開票区の開票確定時のみ、有効なデータであるが、開票確定時点での数は、投票データ確定時の投票者数の男女計（確定投票数）と一致する。

K：確定投票者数

確定投票者は、選挙区での投票データ確定時の投票者数の男女計で、投開票区の有効なデータ確定時から有効。開票率を計算する際に、必要なデータである。

L：法定得票数

法定得票数は、選挙区全体の開票確定時に、選挙区単位の集計レコードについてのみ有効なデータ。当選または法定次点となるためには、得票数が法定得票数以上であることが必要。

4.4 非拘束名簿式比例代表制開票データ・フォーマット

レコード管理部 (32バイト)															
データ識別コード	レコード長識別	選挙種別コード	県コード	選挙区コード	市区町村コード		発表時間	発表分	データ提供通番	投票状況コード	開票状況コード	開状況		確定後修正回数	リザーブ
					市区町村コード	拡張コード						時	分		
M	V														
1	1	1	2	2	3	2	2	2	2	1	1	2	2	1	7

⇒続く

項目は開票データと同じ

開票数値データ部ヘッダー (127バイト)															
開票結果内訳													開票率	持ち帰り票マイナスフラグ	リザーブ
得票総数	按分の切り捨てた票数	いずれの候補者にも属さない票数	有効投票数	無効投票数	投票総数	持ち帰りと思われる票数	不受理と決定した票数	投票者総数	記載無効	確定投票者数	法定得票数				
11	11	11	8	8	8	8	8	8	8	8	11	5	1	13	

続き⇒

⇒続く

開票データと同じ

可変長：政党数・候補者数4バイト＋届出政党ごとに15バイト×（政党名得票分＋候補者n人分）															改行			
届出政党・候補者別得票数																		
政党数・候補者数	届出政党1											届出政党m					C R	L F
	政党名得票数			候補者1				候補者n				政党名得票数	候補者1	...	候補者o			
	政党届出番号	政党内候補者番号	得票数	政党届出番号	政党内候補者番号	得票数	政党届出番号	政党内候補者番号	得票数	...							
4	2	2	11	2	2	11	2	2	11	...	15	15	...	15	1	1	

続き⇒

4.4.1 非拘束名簿式比例代表制開票データ項目一覧

項目名		桁数	内容	初期値	
レコード管理部	データ識別コード	1	M：非拘束名簿式比例代表制開票データ		
	レコード長識別	1	V：（可変長）		
	選挙種別コード	1	別紙A（選挙種別コード表）参照		
	県コード	2	別紙A（都道府県J I Sコード表）参照		
	選挙区コード	2	00：全県区 99：県内市区町村合計等		
	市区町村コード	市区町村コード	3	市区町村コード（J I Sコード） 999：県内市区町村合計等	
		拡張コード	2	同一市区町村内で投開票区が分割される場合および合計・集計値データ時に使用 00：分割無し 01～nn：分割数 91：市部全体の合計 92：郡部全体の合計 93：東京23区合計 94：政令指定都市の合計 95：一般市の合計 99：県内市区町村の合計 （使用例は、別紙B参照）	
	発表時刻	4	発表時刻（時分） 96時間制	空白	
	データ提供通番	2	01～nn 設定不可時は空白（※1）	01	
	投票状況コード	1	当該投票区の状況を表す（※2） 0：未処理 1：中間 9：確定 X：無投票	0	
開票状況コード	1	当該開票区の状況を表す（※3） 0：未処理 1：中間 9：確定 X：無投票	0		
開票状況時刻	4	開票状況に対応する時刻（時分） 96時間制 0000：無投票	空白		
確定後修正カウント	1	0：修正があった場合に1UPされる ※修正処理が提供できない場合は空白	0 （※1）		
リザーブ	7	将来のための空きエリアとして空白とする	空白		
次ページに続く					

- ※1 既に空白を設定している選管は、そのままの仕様で構いません。
- ※2 投票終了後、発表データの一部に最終確認が済んでいないものを含む場合は、「1：中間」を使用してください。
- ※3 開票終了後、発表データの一部に最終確認が済んでいないものを含む場合は、「1：中間」を使用してください。

		前ページから続く		
開票数値データ部 (※1)	得票総数 A	11	開票データの確定時のみ有効 (整数部 8 桁+小数部 3 桁)	A L L 0
	按分の切り捨てた票数 B	11	開票データの確定時のみ有効 (整数部 8 桁+小数部 3 桁)	
	いずれの候補者にも属さない票数 C	11	開票データの確定時のみ有効 (整数部 8 桁+小数部 3 桁)	
	有効投票数 D	8	開票データの確定時のみ有効	
	無効投票数 E	8	開票データの確定時のみ有効	
	投票総数 F	8	開票データの確定時のみ有効	
	持ち帰りと思われる票数(※2、3) G	8	開票データの確定時のみ有効	
	不受理と決定した票数(※2) H	8	開票データの確定時のみ有効	
	投票者総数 I	8	開票データの確定時のみ有効	
	記載無効 J	8	未使用	
	確定投票者数 K	8	投票データの確定時のみ有効	
	法定得票数 L	11	開票データの確定時のみ有効 (整数部 8 桁+小数部 3 桁)	
	開票率	5	開票率 (整数部 3 桁+小数部 2 桁) 提供不可時は空白	
持ち帰り票フラグ(※3)	1	持ち帰りと思われる票数がマイナスの場合 = 1	0	
リザーブ	13	将来のための空きエリアとして空白とする	空白	
次ページに続く				

- ※1 開票数値データ部で、設定する数値の空白桁には「0」を埋める。(例: 1234.0→00001234000)
- ※2 「持ち帰りと思われる票数 G」と「不受理と決定した票数 H」に関し、「持ち帰り、不受理」または「持ち帰り、その他」など、持ち帰り票と不受理票やその他の票数を合算して発表する場合は、合計した票数をいずれかにセットし、他方の項目には「0」をセットする。
- ※3 持ち帰りと思われる票数を負数として発表する場合には「持ち帰り票フラグ」に1をセットし、「持ち帰りと思われる票数」には票数の絶対値をセットする。正数の場合は、フラグの初期値に「0」をセットする。

5. 参考資料

別紙A

選挙種別コード表

コード	選挙種別
A	衆院議員・選挙区選挙
B	参院議員・選挙区選挙
C	参院議員・比例区選挙
D	知事選挙
E	県会議員選挙
F	政令指定市長選挙
G	政令指定市議選挙
H	一般市長選挙
I	一般市議選挙
J	区長選挙
K	区議選挙
L	町村長選挙
M	町村議選挙
※ N	最高裁 国民審査
O	衆院議員・比例選挙

(選挙種別が増えた場合は後に追加する)

データ識別コード表

コード	データ識別
Y	有権者データ
T	投票データ
K	開票データ
M	非拘束名簿式比例代表制 開票データ
S	高点順開票データ

レコード長識別コード表

コード	レコード長識別
H	有権者、投票データ
S	開票データ25人用
L	開票データ99人用
V	非拘束名簿式比例代表制 開票データ用 (可変長)

※ 選挙種別コード表の「N 最高裁国民審査」は、現フォーマットでは対応していないので、使用しない。

都道府県JISコード表

01	北海道	02	青森県	03	岩手県	04	宮城県	05	秋田県
06	山形県	07	福島県	08	茨城県	09	栃木県	10	群馬県
11	埼玉県	12	千葉県	13	東京都	14	神奈川県	15	新潟県
16	富山県	17	石川県	18	福井県	19	山梨県	20	長野県
21	岐阜県	22	静岡県	23	愛知県	24	三重県	25	滋賀県
26	京都府	27	大阪府	28	兵庫県	29	奈良県	30	和歌山県
31	鳥取県	32	島根県	33	岡山県	34	広島県	35	山口県
36	徳島県	37	香川県	38	愛媛県	39	高知県	40	福岡県
41	佐賀県	42	長崎県	43	熊本県	44	大分県	45	宮崎県
46	鹿児島県	47	沖縄県						

別紙B その1

選挙区コード及び市区町村コードの扱いについて

・選挙区コード

選挙区コード	内 容
0 0	全県1区の場合等に使用
n n	0 1～n n 選挙区番号
9 9	県計もしくは全選挙区合計等に使用

・市区町村コード

①市区町村コード J I Sコード

市区町村コード	内 容
n n n	市区町村JISコード（郡JISコードも可）
9 9 9	県または選挙区内の全市区町村合計等に使用

- ②拡張コード 同一市区町村内で投票区が分割される場合及び合計・集計値データ時に使用
 分割のない場合や郡計などの場合は「0 0」とする
 分割識別コードは同一市区町村内で「0 1」から昇順にふる
 合計・集計識別コードは「9 9」とする
 特別集計識別コードを以下のように設ける

特別集計識別コード	内 容
9 1	県または選挙区内の市部全体の合計
9 2	県または選挙区内の郡部全体の合計
9 3	東京2 3区全体の合計
9 4	政令指定都市の合計
9 5	政令指定都市を除く一般市の合計
9 9	県または選挙区内の全市区町村合計等に使用

次ページに具体例を示す。

別紙B その2

(サンプル1：衆院小選挙区・山形県の例)

選挙区 コード	市区町村 コード	拡張 コード	意 味	
01	201	00	山形市	
01	207	00	上山市	
01	210	00	天童市	
01	301	00	東村山郡 山辺町	
01	302	00	東村山郡 中山町	
(イ)	01	999	91	選挙区01市部合計 (山形市～天童市) ←区内市部合計識別コード例
	01	999	92	選挙区01郡部合計 (東村山郡) ←区内郡部合計識別コード例
	01	999	99	選挙区01区計 (山形市～東村山郡) ←区計識別コード例
	02	202	00	米沢市
	02	206	00	寒河江市
	02			・・・村山市(208)～尾花沢市(212)は省略・・・
	02	213	00	南陽市
	02	321	00	西村山郡 河北町
	02	322	00	西村山郡 西川町
	02			・・・西村山郡朝日町(323)～西置賜郡小国町(401)は省略・・・
	02	402	00	西置賜郡 白鷹町
	02	403	00	西置賜郡 飯豊町
(イ)	02	999	91	選挙区02市部合計 (米沢市～南陽市) ←区内市部合計識別コード例
	02	999	92	選挙区02郡部合計 (西村山郡～西置賜郡) ←区内郡部合計識別コード例
	02	999	99	選挙区02区計 (米沢市～西置賜郡) ←区計識別コード例
	03	203	00	鶴岡市
	03	204	00	酒田市
	03	205	00	新庄市
	03	361	00	最上郡 金山町
	03			・・・最上郡最上町(362)～東田川郡三川町(426)は省略・・・
	03	428	00	東田川郡 庄内町
	03	461	00	飽海郡 遊佐町
(ロ)	03	999	91	選挙区03市合計 (鶴岡市～新庄市) ←区内市部合計識別コード例
	03	360	00	選挙区03最上郡計 (金山町～戸沢村) ←郡JISコード例
	03	420	00	選挙区03東田川郡計 (三川町～庄内町) ←郡JISコード例
	03	460	00	選挙区03飽海郡計 (遊佐町) ←郡JISコード例
	03	999	92	選挙区03郡部合計 (最上郡～飽海郡) ←区内郡部合計識別コード例
	03	999	99	選挙区03区計 ←区計識別コード例
	99	999	91	全市部合計 (山形市～新庄市) ←県内市部合計識別コード例
	99	999	92	全郡部合計 (東村山郡～飽海郡) ←県内郡部合計識別コード例
	99	999	99	県 計 ←県計識別コード例

※2020年3月6日現在

(備考) 郡計のデータを提供されない場合、提供データからだけでは町村がどの郡に属するかわからないため、郡計を集計することはできない。⇒各社独自で集計する。

(イ) 「選挙区01・02＝選挙区内の郡部計」の表記例。

(ロ) 「選挙区03＝個別の郡(最上郡、東田川郡、飽海郡)の郡計」の表記例。

※Q&A 7 (23ページ) 参照

別紙B その3

衆議院選挙などにおいて、同一市区町村が複数選挙区に分割された場合の例を以下に示す。

サンプル2-2は、衆参同日選挙などでの例。

(サンプル2-1：衆議院小選挙区、衆議院比例区・東京都例)

開票所	衆議院小選挙区			衆議院比例区		
	選挙区 コード	市区町村 コード	拡張 コード	選挙区 コード	市区町村 コード	拡張 コード
千代田区	01	101	00	00	101	00
中央区	02	102	00	00	102	00
港区①	01	103	01	00	103	01
港区②	02	103	02	00	103	02
新宿区①	01	104	01	00	104	01
新宿区②	10	104	02	00	104	02
文京区	02	105	00	00	105	00
台東区	02	106	00	00	106	00
墨田区	14	107	00	00	107	00
江東区	15	108	00	00	108	00
品川区①	03	109	01	00	109	01
品川区②	07	109	02	00	109	02
目黒区①	05	110	01	00	110	01
目黒区②	07	110	02	00	110	02
	～以下省略～			～以下省略～		

<注>

衆議院選挙で、比例区も小選挙区と同じ開票区の単位で開票を行う場合は、拡張コード（県コード、市区町村コードが同じなら）は、比例区でも小選挙区と同一の開票区のように拡張コードを付ける。

このため、小選挙区コードが異なる場合でも、市区町村が複数の開票所に分かれる時は、「01」からの連番をふって区別する。

（都道府県議選挙と知事選挙についても同様に扱う）

※2020年3月6日現在

(サンプル2-2：衆参同日選挙の参議院選挙区、参議院比例代表・東京都例)

開票所	参議院選挙区			参議院比例区		
	選挙区 コード	市区町村 コード	拡張 コード	選挙区 コード	市区町村 コード	拡張 コード
千代田区	00	101	00	00	101	00
中央区	00	102	00	00	102	00
港区①	00	103	01	00	103	01
港区②	00	103	02	00	103	02
新宿区①	00	104	01	00	104	01
新宿区②	00	104	02	00	104	02
文京区	00	105	00	00	105	00
台東区	00	106	00	00	106	00
墨田区	00	107	00	00	107	00
江東区	00	108	00	00	108	00
品川区①	00	109	01	00	109	01
品川区②	00	109	02	00	109	02
目黒区①	00	110	01	00	110	01
目黒区②	00	110	02	00	110	02
	～以下省略～			～以下省略～		

※2020年3月6日現在

上記衆議院小選挙区では、港区が1区と2区に分かれており、開票区も2か所に分かれている。拡張コードについては、選挙区が同じか違いかにかかわらず、一つの市区町村が複数の開票区に分かれる場合に「01」からの連番をふって区別する。また、衆議院比例区についても同様に一つの市区町村が複数の開票区に分かれる場合に「01」からの連番をふって区別する。

別紙B その4

(サンプル3：県議会選挙・岐阜県の例)

選挙区 コード	市区町村 コード	拡張 コード	意 味	
01	201	00	岐阜市	
01	999	99	選挙区01区計（岐阜市）	←区計識別コード例
02	202	00	大垣市	
02	381	00	安八郡 神戸町	
02	999	99	選挙区02区計（大垣市～安八郡）	←区計識別コード例
・・・ 3区～25区については省略 ・・・				
26	501	00	加茂郡 坂祝町	
26	502	00	加茂郡 富加町	
26	503	00	加茂郡 川辺町	
26	504	00	加茂郡 七宗町	
26	505	00	加茂郡 八百津町	
26	506	00	加茂郡 白川町	
26	507	00	加茂郡 東白川村	
26	999	99	選挙区26区計（加茂郡）	←区計識別コード例
99	999	91	全市部合計（岐阜市～海津市）	←県内市部合計識別コード例
99	999	92	全郡部合計（安八郡～加茂郡）	←県内郡部合計識別コード例
99	999	99	県 計	←県計識別コード例

※2020年3月6日現在

(備考) 郡計のデータを提供されない場合、提供データからだけでは町村がどの郡に属するかがわからないため、郡計を集計することはできない。⇒各社独自で集計する。

別紙C

[補足] 確定時の高点順データの提供を要望した場合のデータ・フォーマット案について

【手段】 データ識別コードを新たに設け（例 高点順データ：S）、
高点順のデータファイルは別にする。

候補者別得票数の候補者の並び順を、高点順に、届け出番号でソートしてもらう。

[高点順開票データ・フォーマット]

レコード管理部 (32バイト)															
データ識別コード	レコード長識別	選挙種別コード	県コード	選挙区コード	市区町村コード		発表		データ提供通番	投票状況コード	開票状況コード	開状況		確定後修正回数	リザーブ
					市区町村コード	拡張コード	時	分				時	分		
S															
1	1	1	2	2	3	2	2	2	2	1	1	2	2	1	7

投票データ及び通常の開票データに同じ

⇒続く

開票数値データ部ヘッダー (127バイト)														
開票結果内訳												開票率	持ち帰り票マイナスフラグ	リザーブ
得票総数	按分の切り捨てた票数	いずれの候補者にも属さない票数	有効投票数	無効投票数	投票総数	持ち帰りと思われる票数	不受理と決定した票数	投票者総数	記載無効	確定投票者数	法定得票数			
11	11	11	8	8	8	8	8	8	8	8	11	5	1	13

続き⇒

⇒続く

n=25 : 327バイト n=99 : 1289バイト							改行	
候補者別得票数							CR	LF
有効候補者数	候補1		候補n				
	届出番号	得票数		届出番号	得票数			
2	2	11	2	11	1	1	

続き⇒

レコード長 n=25 488 バイト
レコード長 n=99 1450 バイト

┌高点順に届け出番号でソート┐

別紙D

『新聞協会・選挙標準フォーマット』に対するQ/A集

< Q 1 > 「投票データ項目一覧」「開票データ項目一覧」の中で記述している『発表時刻』と『投票状況時刻』『開票状況時刻』の定義の違いは何か？

- < A > ①『発表時刻』＝選挙管理委員会が報道機関に対して発表した実時刻を表します。
②『投票状況時刻』『開票状況時刻』＝投開票が進んだある集計時点の時刻を表します。
例：23時現在データが23：20に発表された場合は
『発表時刻』＝2320
『投票状況時刻』『開票状況時刻』＝2300

< Q 2 > 「投票データ項目一覧」「開票データ項目一覧」の中で記述している『投票状況コード』『開票状況コード』の判断基準は何か？

- < A > ①「投票データ項目一覧」中の『投票状況コード』
＝「中間」「確定」とは、発表された投票データが確定数値であるかどうかを表します。その時刻において投票が終了しているかどうかを表すものではありません（投票終了時点の投票者数でも、仮確定の場合は「中間」とします）。
②「開票データ項目一覧」中の『投票状況コード』
＝『投票状況コード』は、開票データ中の『確定投票者数』と関連があります。報道側は、この『確定投票者数』を参照して投票率を独自に計算する場合があります。なお、この『確定投票者数』は『投票状況コード』が「確定」した場合のみ有効となる項目で、投票データ中の『投票者数の男女計』と同じ値です。
③「開票データ項目一覧」中の『開票状況コード』
＝「0：未処理」は、開票作業が未処理というよりも、その開票区の処理結果が未発表（0票のまま）の場合を表します。
＝「1：中間」は、確定票として発表される前の発表すべてを表します。
＝「9：確定」は、無効票なども確定し、正式に確定票として発表する場合を表します。
＝「X：無投票」の場合は、データそのものが無いので、詰めた形でデータを提供していただきます。しかし、詰めた形でデータ提供ができない場合、例外的に使われます。

< Q 3 > 「投票データ項目一覧」「開票データ項目一覧」の中で記述している『データ提供通番』は、投票データと開票データで別々の通番でよいか？ また、既に提供したデータを再度提供する場合は、通番をカウントアップするのか？

- < A > ①『データ提供通番』は、投票データと開票データで別々にします。
②提供済みのデータを再提供する場合は、『データ提供通番』のカウントアップは行いません。

< Q 4 > 『データ提供通番』は、提供する新聞社ごとに通番（01～nn）を付けるのか？

< A > ①データ提供する新聞社ごとに付ける番号ではありません。都道府県選管が時系列的にまとめてデータ提供する際に、データファイルを識別するために付ける通番です。（何時何分に第1回発表、その後、第2回などとします）

< Q 5 > 「有権者データ項目一覧」「投票データ項目一覧」の中で記述している『当日有権者データ』は、従来、選挙区と比例区で共通の数字を使用（流用）していた。今後もこのままで良いか？

< A > ①提供する新聞社に分かれば良いので、共通の数字で構いません。

< Q 6 > 無投票の場合のデータ提供はどのようにするか？

< A > ①無投票の場合はデータそのものが無いので、詰めた形でデータを提供していただきます。

< Q 7 > 『新聞協会・選挙標準フォーマット』中の「別紙B・その2（サンプル1：衆院小選挙区・山形県の例）」では、第3選挙区だけが各郡別に集計されているがなぜか？

- < A > ①同じ郡でも町村ごとに別の選挙区に分割されている場合があります（2020年3月現在、青森県上北郡など）。
山形3区の例はすべての町村が分割されていないため、各郡別に集計できるケースです。
- ②『新聞協会・選挙標準フォーマット』中の、「2. 電子データ仕様」の項目で「県計・選挙区計・市部計・郡部計、市区町村計などの提供」を要望しています。
- ③要望事項ということもあって、同標準フォーマットとしては、特に、どこまで合計データを入れてほしいかということは決めていません。
- ④この山形県の例は、説明用のサンプルで、実際に県選管から提供されているデータの内容とは異なると思われます。実際に提供していただく場合は、県全体で整合した形で提供していただくことになると思われます。

<Q8> 「投票データ項目一覧」「開票データ項目一覧」の中で記述している『市区町村コード（拡張コード部分）』に「政令指定都市の区計コード」を新設してほしい。
→第4版で対応しました。

<A>◆ [ケース1] =政令指定都市が2市ある場合（福岡県の例）

	<市区町村コード>	<拡張コード>
福岡県計	999	99
指定市計	999	94（北九州市と福岡市の市計の合計）
一般市計	999	95（北九州市と福岡市以外の市の合計）
市部計	999	91（政令指定都市計、一般市計の合計）
郡部計	999	92（郡部の合計）
北九州市計	100	99（北九州市の合計）
福岡市計	130	99（福岡市の合計）

◆ [ケース2] =政令指定都市が1市の場合（***=JISコード）

政令市計 *** 99（政令指定都市の合計）

なお、「4.1.1有権者データ項目一覧」「4.2.1投票データ項目一覧」「4.3.1開票データ項目一覧」の中で記述している『市区町村コード（拡張コード）』に、「政令指定都市の区計コード」を新設しました。

< 以 上 >